

昭和52年度第2回シグマ特別専門委員会議事録

日 時 昭和53年3月14日(火) 11:00~17:30

場 所 日本原子力研究所東京本部第35会議室

出席者 塚田 甲子男(主査, 原研)

浅見 明(原研), 安 成 弘(東大)

飯島 俊吾(NAIG), 五十嵐 信一(原研)

大竹 巖(動燃), 木村 逸郎(京大炉)

関 雄次(MAPI), 立花 昭(原発)

中嶋 龍三(法大), 西村 和明(原研)

久武 和夫(東工大), 更田 豊治郎(原研)

松延 広幸(住友原工), 宮坂 駿一(原研)

山越 寿夫(船研), 山室 信弘(東工大)

山本 正昭(FBEO),

オブザーバ: 菊池 康之(原研), 浅見 哲夫(原研)

欠席者: 大田, 大野, 小幡, 桂木, 坂本, 田中,

夏目, 能沢, 原田, 平田, 弘田, 百田,

配布資料

1. 前回議事録
2. 物性データ流通システムの基本構想
3. 遮蔽定数WG53年度計画
4. 核データセンター長期計画
5. Proposed Agenda NEANDC Oak Ridge Meeting
6. Specialist Meeting on Neutron Data of Structural Materials for Fast Reactors 文献リスト
7. INDC/P(78)-1 Memorandum, Further developments on maintaining the "barn" as the unit of nuclear cross sections

議 事

1. 主査の挨拶
2. 前回議事録確認
3. 運営委員会の報告及び事務局報告

主査及び更田委員より概略について報告が行われた。その中で本年行われるCTR Advisory Group Meetingに、ORNLに留学中の関秦氏に出席してもらうことにしたことが紹介された。

4. 専門部会活動の報告

- 核データ専門部会（五十嵐委員）：核データ専門部会の3つのW.G.の作業内容に重複があったためW.G.の名称を変更して区分を明確にするとともにWG間でメンバーの1部の移動を行ったことおよび重核データWG・共鳴パラメーターサブWG・FP核データWG・軽・中重核データWGの最近の活動状況の説明があった。

松延委員および浅見（明）委員よりそれぞれ重核データWG・共鳴パラメーターサブWGの活動についての補足説明が行われた。

- 炉定数専門部会：FP炉定数WG（大竹委員）、積分評価WG（菊池委員）、遮蔽定数WG（宮坂委員、資料(3)により）の最近の活動について説明があった。
- 核構造・崩壊データ専門部会（久武委員）：52年度の途中からMass Chain Evaluationのための核構造データWGが発足したのに伴い、専門部会の名称を変更した。燃料計量^核データWGは一段落が着いたので転進を検討し、核燃料サイクル核データWGと名称を変え、メンバーの変更、測定技術の専門家を入れることを考えていること、崩壊熱評価WG、核構造データWGの最近の状況についての説明が行われた。

これらの報告に対し、とくに核燃料サイクル核データWGの考え方、進め方等について討論が行われた。

5. 物性データバンク

科技厅のNIST計画の一環として進められている物性データバンクの構想について、更田委員より資料(2)にもとづいて説明が行われた。

6. 京大炉核データ計画

木村委員より、京大炉で現在の部門を拡張する計画の中に原子力関係

の情報センターとして、中性子核データ、放射線防護基礎データ、放射線計測に関するデータを扱う部門を考えていることが紹介された。

7. 原子核データセンターの構想

更田委員より、核データ小委員会からの情報として、阪大の核物理研究センターに荷電粒子反応データを中心としたセンターを置く計画のあることが紹介された。

8. 監査小委員会

主査より監査小委員に対し依頼状を出したことが紹介された。監査小委員にはシグマ委員会のマンネリ化を防ぐために批判的立場から検討してもらうことが述べられた。

これに対し、監査小委員より advisory 委員会と考えてよいか、監査と言うとマイナス面を調べる感じがするが、どう言うことをやって欲しいか各委員から希望を出して欲しい旨の発言があった。

9. 53年度計画

核データセンターの53年度計画および実行予算について更田委員より説明が行われた。

10. 54年度計画

核データセンターの54年度計画および長期計画について、更田委員より資料(4)にもとづいて説明が行われた。これに対してJENDL-3以降で^{は2次}線データを入れる^{こと}の Dosimetry File を考えて欲しい。displacement cross section をとり挙げて欲しい等の意見が出た。

11. 人 事

53年度本委員の承認について、内規にもとづく手続きが欠けていたが、近く運営委員会で新名簿を作成し、郵便で各委員の了承をえることにしたい旨、更田委員より説明があった。

12. 学会特別会合

菊池氏より、原子力学会春の年会でされる「シグマ」「炉物理研究」両特別専門委共催の核データ、炉物理に関する会合についての紹介があった。

13. NEANDC 会合

塚田主査より、4月3～7日にオークリッジで行われるNEANDC会

合の予定について資料(5)にもとづいて説明が行われた。

14. NEACRP 会合

塚田主査より、NEACRP 会合は 5 月の予定であったが、11月6～10日に変更することについて了承の返事を出したこと、会議の間に CRP のメンバーとシグマ委のメンバーとの会合を持つことを考えていること等の説明があった。

15. NEA Data Bank Committee

3月17日のNEA Data Bank Committee ^{ついて}に~~更田、桂木両委員~~および~~原子力局の川崎氏が出席したことが報告され、~~更田委員より会合の概要について説明が行われた。

16. Geel 会議報告(大竹委員、浅見(哲)氏)

原子力学会の特別会合で詳しい報告を行うことから資料(6)を用いて簡単な報告を行った後、トピックスについて討議を行った。

以上